

**「令和2年度ふじのくに木使い建築カレッジ」として、  
フォローアップ講座を開催しました。**

### 1 要 旨

- ・平成29年度から令和元年度まで「ふじのくに木使い建築カレッジ」を開催し、木材を利用した非住宅建築物の設計に意欲のある設計者等を対象に、静岡県産材を使った木造化・木質化を進めるに当たって、木材や木造建築に関する知識の習得と、木材供給者との意見交換の場を提供してきました。
- ・その結果、「ふじのくに木使い建築カレッジ」を修了した設計者38名のうち、10名の修了者が、県産材を利用した中規模非住宅建築物の木造化・木質化の設計を手掛けていました。
- ・今回、この設計を手掛けたカレッジ修了者による事例発表を通じて、設計成果を共有する機会を設け、身近な事例を題材に意見交換を行い、お互い刺激しあうことで、今後の実践に繋げていくための「フォローアップ講座」を開催しました。

### 2 開催概要

日 時	令和2年11月26日(木) 13:30-17:10
会 場	静岡市産学交流センター6Fプレゼンテーションルーム
受 講 者	15名
主 催 者	静岡県木材協同組合連合会(県木連)、県
講 評	NPO法人サウンドウッズ 代表理事 安田 哲也氏
挨拶 講 評	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>挨拶：県木連 藪崎参与</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講評：安田講師</p> </div> </div>

### 3. 事例発表

カレッジ修了者が手掛けた建築物の設計成果について、発表が行われました。

表 題	No.1 地域史を蓄積していく神社社務所
発 表 者	三井構造設計事務所 三井 史生氏 合同会社 金子敦史建築計画工房 金子 敦史氏
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「西美菌諏訪神社」の設計に取り組んだ事例</li> <li>・歴史ある神社に集う氏子などの地元関係者の思いを汲み取り、建物の維持修繕にも配慮した建築事例</li> </ul>

講 評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトは起こすまでに多大な労力が伴うが、金子氏がコーディネーターとなり、地元関係者の思いを汲み取り、県産材を上手く使った好事例</li> <li>・発注者が利用者であることも特徴的で、愛されて長く使ってもらえる条件をクリアした木造建築物である。</li> </ul>
写 真	

表 題	No. 2 地域で創る中規模木造施設
発 表 者	酒井信吾建築設計事務所 酒井 信吾氏 株式会社永田デザイン一級建築士事務所 永田 章人氏
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「清水障害者サポートセンターそら」の設計に取り組んだ事例</li> <li>・構造設計者と協力して設計を行い、コスト試算している。</li> <li>・地元の木を使い、地元の大工（人材）が施工を担った、人に優しい木の空間を創出した建築事例</li> </ul>
講 評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「そら」は、建築主が木造に理解があり、木材との親和性が高い社会福祉施設をうまく仕上げた好事例</li> <li>・この設計を通じて、しずおか木造建築研究会（意欲ある設計者等のネットワーク）の結成に繋がったことが素晴らしい。</li> <li>・また、最近の事例として挙げられた、こども園については、耐火の面からS造にしたとのことだったが、階段のつくりや深い軒などはS造にしたことによる合理性を感じる。</li> </ul>
写 真	

表 題	No.3 『結』～木と人の温もりで繋ぐ、笑顔を結ぶ空間作り～
発 表 者	アトリエKAYA一級建築士事務所 山本 康二郎氏
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静岡市役所庁舎内の「茶木魚」の設計に取り組んだ事例</li> <li>・ 市の様々な部署の若手職員を中心としたプロジェクトチームの自由な発想から出る「使う人」からの意見を取り入れながら、設計者がコーディネーター役となり、施工者、家具製作者、木材供給者などの「作る人」と協力して、短期間で施設を木質化した建築事例</li> </ul>
講 評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木材のやさしい使い方、コテコテ感がないデザインで居心地良く、公共施設では、全国でも珍しく、自由な発想が設計・施工に活かされた好事例</li> <li>・ デザインだけでなく、家具や照明も公共らしくない。ぜひ見てほしい施設なので、県内外の設計者に薦めている。</li> <li>・ この設計を通じて、しずおか都市木造・木質化プロジェクト（地域の設計者や木材供給者等のネットワーク）の結成に繋がったことも、素晴らしい。</li> </ul>
写 真	

#### 4 意見交換

No. 1～3 の事例発表を基に、発表者・講師・木材供給者が3つのグループに分かれ、少人数のグループで移動しながら、すべての受講者と意見交換ができるような形式で行いました。(1回目40分、2回目30分、3回目30分)

テーマ	木材を使うメリットの伝え方とネットワーク化の必要性
講師	NPO 法人サウンドウッズ代表理事 安田 哲也 氏
発表者	三井構造設計事務所 三井 史生 氏
木材供給者	天竜材水平連携協議会 内山 忠彦 氏
進行役	森さぼ代表 山田 真弓 氏
主な発言	<p><b>○木材を使うメリットの伝え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木造は鉄骨造と異なり、セオリーが定まっていないことから、全体統括となる意匠設計者がキーパーソンとなる。</li><li>・基本設計の段階で、構造設計者と木材調達業者にも関わってもらうことで、不合理なコスト増を抑えることができ、木材を使うメリットを効率的に発注者に伝えられる。</li><li>・木材の調達に関して、一般流通材ではなく、規格から外れた特殊材を使うとコストが全く合わなくなることから、木材が高いという苦手意識が生まれる。</li><li>・意匠設計者が木材調達業者とのネットワークを築くことで、コスト面での解決策も提案できるようになり、ブレイクスルーできる。</li></ul> <p><b>○ネットワーク化の必要性</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中大規模の木造建築を行うにあたり、構造設計や調達等どこに聞けばよいかわからないといった質問が多かった。</li><li>・意匠設計者がすべてを知っている必要はなく、各課題に対する専門家とのネットワークを築き、どこに聞けば適切に解決できるかを把握できていればよいと考える。</li><li>・本カレッジを通じて築かれる顔の見えるネットワークや、静岡県木材業者ネットワークをぜひ活かしてほしい。</li></ul>
写真	

テーマ	他工法との比較を数値で見える化
講師	(一社)中大規模木造プレカット技術協会理事 功刀 友輔 氏
発表者	酒井信吾建築設計事務所 酒井 信吾 氏 株式会社永田デザイン一級建築士事務所 永田 章人 氏
木材供給者	COC大井川グループ 落合 秀樹 氏
進行役	静岡県木材協同組合連合会 新木主任
主な発言	<p><b>○他工法との比較を数値で見える化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通常はS造・RC造と木造のどちらを選択するか悩むことが多いと思うが、そのような場合、最終判断を行う建築主に、指標を数値化して示している。</li> <li>・ 例えばS造と木造を比較する場合、①コスト、②利用者の利便性・快適性、③環境配慮の3つの指標に、それぞれ60:30:10というように重み付けする。どの指標を重要視するかは建築主の判断に任せ、他の指標も付け加えてもいい。</li> <li>・ コストを例にとると、想定予算が1,000万円で、S造が1,000万円、木造が1,200万円かかると積算された場合、S造は予算に対し100%充足なので60点、木造は20%掛かり増しなので、20%減の48点というように、点数を付けていき、他の指標も数値化して総合点で比較する。</li> <li>・ こうすることによって合理的に木造を勧めることができる。</li> </ul> <p><b>○困ったらご相談を</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木造に取り組みたいという設計者は多い。二の足を踏ませる悩みは以下の3つ。          悩み①耐火設計…苦しんで経験値を上げるしかないと思う。          悩み②構造設計…静岡には優秀な構造設計士がいるので、早めの相談を。          悩み③コスト…合理的な考え方で無理せずできるところから。</li> <li>・ S造なら悩んだら聞く相手が分かり、すぐ回答をもらえるが、木造だと、まず誰に聞けばいいのか分からない。</li> <li>・ 相談していただければ適切な専門家を紹介する。</li> <li>・ 悩み相談できるネットワークを持つことが一番大切かもしれない。</li> </ul>
写真	 

テーマ	プロジェクトチームのつくり方と木材調達の方法
講師	しずおか木造塾 塾長 早津 和之 氏
発表者	アトリエKAYA一級建築士事務所 山本 康二朗氏
木材供給者	オクシズネット 佐野 賢輔 氏
進行役	静岡県（県産材利用班） 寺田主査
主な発言	<p><b>○プロジェクトチームのつくり方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作る人（建築、営繕、設計、施工）、使う人（建築主、施設所管、利用者）のそれぞれが、偏らないようにメンバーにいるといい。設計者の立場はそれぞれの意見を聞いて、調整して形にするコーディネーターである。</li> <li>・設計者がコーディネートしないと、まとまらない。まとめる能力があり、コーディネートできるのが設計者。</li> <li>・市の様々な部署の若手職員を中心にしたプロジェクトチームで取り組んだからこそ実現した取組。自由な発想で取り組めた。</li> </ul> <p><b>○木材調達の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木材調達については、設計の初期段階から相談してほしい。まずは静岡県木材協同組合連合会に相談すれば、適切な相談先を紹介してくれる。</li> <li>・公共事業であっても、市産材、県産材で調達できないもの、コスト等に無理が生じるものがある。市産材→県産材→国産材→集成材その他の順で、適材適所で提案している。</li> <li>・木材供給者への見積りの際、設計者が何をしたいのか伝わるように、部材の仕様だけでなく、図面を見せてもらえば、適切な見積りができる。</li> </ul>
写 真	 

## 5 アンケート結果を踏まえた評価

- ・受講者からは、講座に満足し、今後の設計業務の役に立つとの回答をいただいた。
- ・木造化や木質化の建築設計に携わっている、または取り組もうとしている設計者にとって、お互いに良い刺激となる有意義な講座となった。
- ・カレッジを通じて、個々に課題を抱え込むことなく、建築者同士や、木材供給者などとの情報共有をしながら、解決策を探るためのネットワーク化が進んでいることが分かり、本カレッジの成果を確認できた。
- ・建築物の木造化・木質化の機運を高め、設計者や木材供給者等によるネットワーク化の契機になるよう、本カレッジを継続していく必要がある。